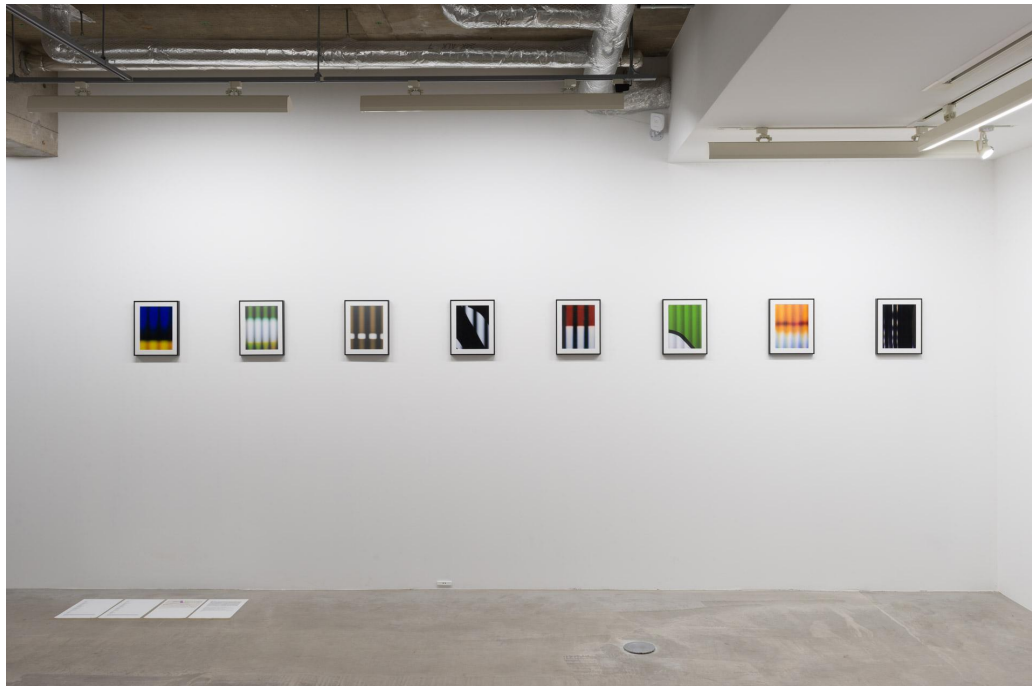




installation view of *Stripe (50Hz)* series, 2015

photo by Ken Kato

河西: 次にご紹介するのは安瀬英雄の作品です。安瀬さんはご自身のポリシーでレセプションに出席されていないため、以下、私の解釈となりますが、彼の作品についてご紹介をさせていただきます。

彼は工芸出身、その後は絵画制作をやっていた作家ですが、3年ほど前から写真作品を発表しています。ですが写真の作品というよりも、「現代の写真の概念」をコンセプチュアルに見せている作家だと解釈しています。というのも、写真と言えばカメラがありフィルムがあり、切り取った決定的瞬間の像を浮かび上がらせるもの、という従来の定義がありますが、もっとフラットに「現代における写真とは？」ということ一般人レベルで考えると、iPhoneなどのタブレットで写真を撮ってSNSにアップしてコミュニケーションに活用する、というのが、現在最も流通している写真の形ではないかと思うからです。

この《Stripe (50Hz)》シリーズもすべてiPhoneで撮られています。蛍光灯の光をデジタルカメラで撮ると、縦縞の線が入るフリッカーという現象が起こりますが、そのような現象を意図的に撮りためて、《Stripe》シリーズと名付けています。「50Hz」という副題がついていますが、これは商用周波数が50Hzの地域、つまり関東地方に本人がいるときに限り、この作品を1日1枚Twitterにアップロードしているからです。例えば、商用周波数が60Hzである関西地域にいるときにはこの作品は撮っていません。つまりは、東京電力の作り出す光の記録を毎日記録している、ということになります。

また、床に紙が4枚置いてあるのをご覧いただけますでしょうか。各作品に、この4枚のデータシートがついてきます。カメラであれ、iPhoneであれ、デジタルで撮影された全ての写真にはこのようなEXIFデータがついてくるのですが(紙を1枚持ち上げる)、ここにはレンズの種類だったり露光設定だったり、様々な情報が記録されています。彼はそのデータを可視化させていて、「世の中にアップロードされている全ての写真にこのようなデータがある、しかし皆は気づいていない」ということをコンセプチュアルに見せていて、やはり現代美術作家のアプローチだと思います。

また別の紙には、Yahoo! ニューストピックスとTwitterのニュースフィードのアーカイブがまとめられています(他の紙を持ち上げる)。つまり作品の撮影時間に、「世の中で何が起こっていたか」を示しています。例えばこの「2月18日渋谷区」の作品の場合は、撮影とほぼ同時に「プロレス 仲田龍さん死去」というニュースが掲載されたそうです。別のシートには作品撮影場所の位置情報も印刷されています。つまりこれら4枚の情報シートは、視覚的にはこの壁に掛かっている作品とは異なりますが、情報としては「同価値」とも言えます。まさに現代の写真の在り様を体現している作品だと思います。